

時期	海域	日本側の監視内容	中国側論文 ()は論文の発表年
2014年 4月中下旬	沖縄・久米島の北約140～160キロ・㍍	政府の中止要請を無視して、調査船「科学」が調査を強行、海中に物体を投げ入れる	「科学」から潜水機や採泥器を沖縄トラフ・伊平屋海嶺の熱水噴出孔付近などに投入し、深さ1200～1600㍍の海底からレアアースなどを採取 (14～18年)
12年 10月下旬	沖縄・尖閣諸島の魚釣島南西約50キロ・㍍	事前通告とは異なる海域に進入、警告を無視し、「科学3号」がロープに装着した観測機器を海中に投入	「科学3号」搭載の鋼鉄製の箱形採泥器で沖縄トラフ南西部の深さ1125㍍の地点などから採泥。周辺で海水も採取 (17年)
03年12月、 04年12月	沖ノ鳥島周辺	「科学1号」が同意なしに調査。音波を出したり、ワイヤを投下したりした	「科学1号」が沖ノ鳥島EEZの内外200か所で採泥。試料中のレアアースなどを分析 (07～15年)